

令和 7 年 8 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

復活するカワセミと後退するヤマセミ

多摩川は山梨県笠取山を源流として、東京都を貫流して東京湾に流れ込む全長 138km の一級河川です。青梅市でも最も主要な河川であり、水源・水運など様々に利用されてきました。同時に、多摩川は鳥類にとっても重要な生息地になっています。長大な多摩川の鳥類の全容を明らかにするのは容易ではありませんが、令和元（2019）年から令和 6（2024）年にかけて、市民・研究者・学生等により多摩川の東京都域 90km について鳥類調査が行われ、1 km ごとに鳥類の種類・個体数が調べられました（蓮尾他 2021・御手洗 投稿中）。この調査の結果から、河川の鳥類を代表する種類であるカワセミ科のカワセミとヤマセミについての多摩川での生息状況を紹介します。

○ カワセミ科カワセミ *Alcedo atthis* （調査結果：図 1）

美しい緑色と橙色の羽色を持つ全長約 17 cm の鳥類で、小型の魚類や甲殻類などを捕食します。調査の結果からは、河口近くを除き多摩川下流から中流のほとんどの場所で見られました。青梅市でも全域で見られましたが、奥多摩町に入ると徐々に見られなくなりました。カワセミはかつて多摩川全域に生息していましたが、終戦後の昭和 20（1945）年から分布が後退し、昭和 40 年代半ばには青梅市より西側にしか生息していませんでした（松田 1971）。その後、徐々に分布域を回復し、平成期には区部で再び繁殖が見られるようになりました（金子 1988）。令和期に入って行われた調査でも、カワセミの分布域の回復傾向が継続していることが明らかになりました。

○ カワセミ科ヤマセミ *Megaceryle lugubris* （調査結果：図 2）

背面が白黒の細かな斑模様、腹面が白色の全長約 38cm の鳥類で、カワセミと同じく魚類や甲殻類などを捕食します。調査の結果から、河口から青梅市までさかのぼっても見られず、奥多摩町に入ってようやく少数が見られました。ヤマセミは昭和 60 年代には多摩川中流域でも生息・繁殖していましたが（日本野鳥の会東京支部・多摩川探鳥リーダーグループ 1991）、その後分布域は後退し、西多摩でも生息数が減少しています（川内 2023）。青梅市内でも平成期は繁殖が確認されていましたが（青梅自然誌研究グループ 未発表）、現在は繁殖の情報はありません。同じカワセミ科のカワセミとは対照的に、現在も分布域が多摩川の上流に後退していると考えられます。

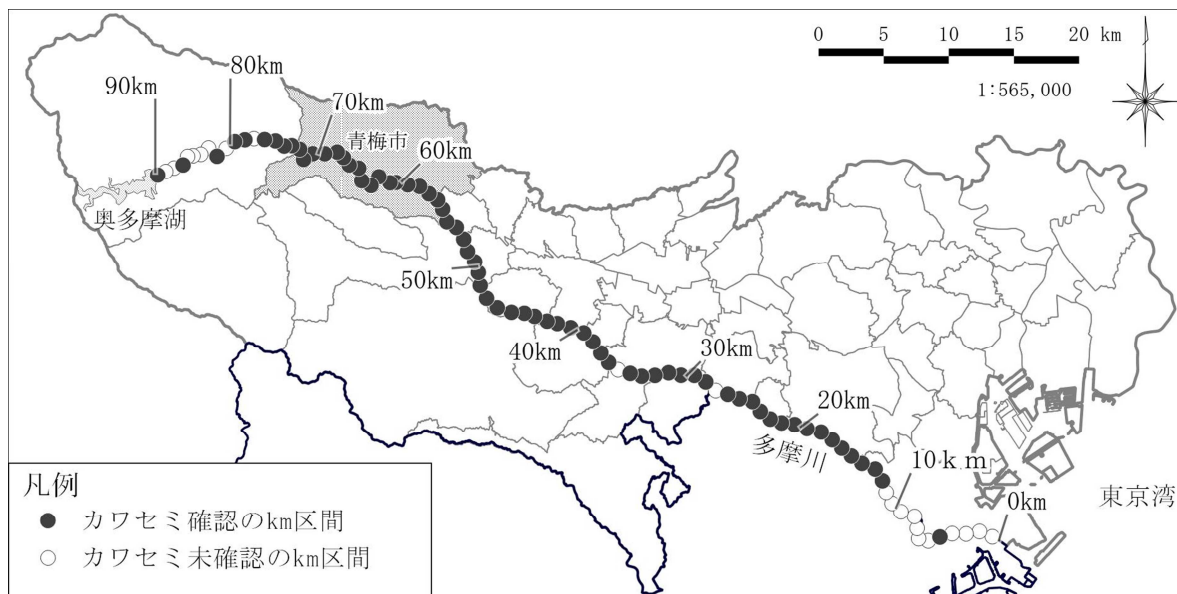


図 1

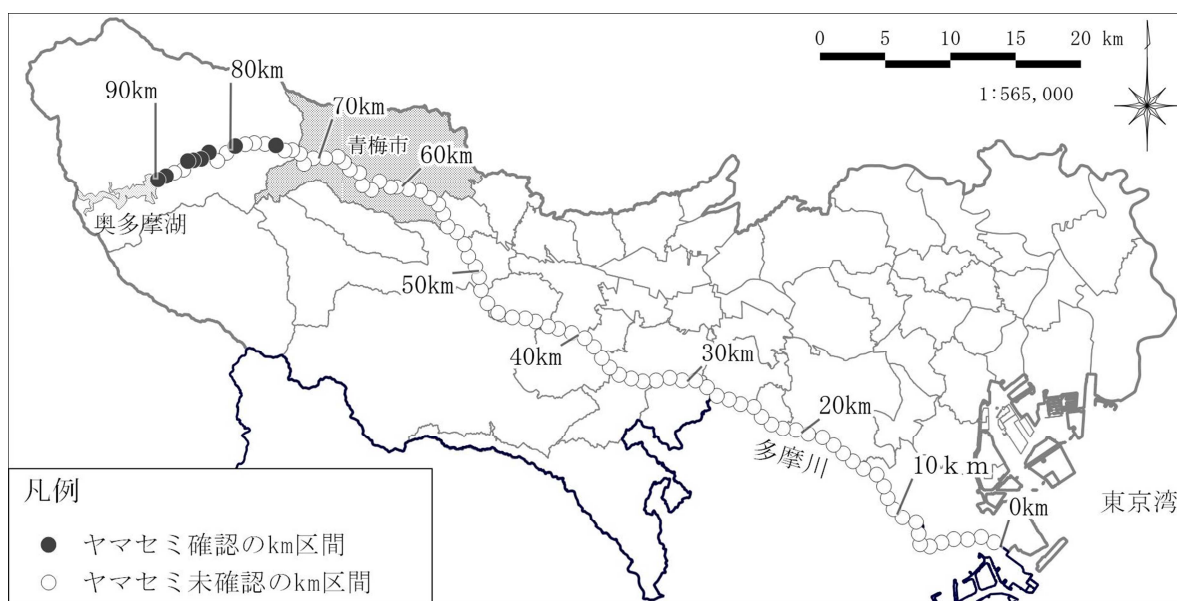


図 2

<参考文献>

- 金子凱彦 (1988) 「帰ってきた東京のカワセミ」 24～27 p. 『都市に生きる野鳥の生態』 (都市鳥研究会)
- 川内博 (2023) 「ヤマセミ」 485 p. 『東京都レッドデータブック 2023 - 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版 -』 (東京都環境局自然環境部)
- 日本野鳥の会東京支部・多摩川探鳥リーダーグループ (1991) 「多摩川中流域における鳥類相の変遷—多摩川探鳥会 10 年間の記録から—」 181～203 p. 『Strix』 (10) (公益財団法人 日本野鳥の会)
- 蓮尾純子・増田直也・御手洗望・井上太志・川内博・徳長ゆり香・鈴木遼太郎 (2021) 『多摩川鳥類カウント再現 (研究助成・一般研究 VOL. 43-N0. 255) 』 (公益財団法人東急財団)
- 松田道生 (1971) 「減少する東京のカワセミ—東京支部・カワセミ分布調査から」 300～305 p. 『野鳥』 (36) (公益財団法人 日本野鳥の会)
- 御手洗望 (投稿中) 「多摩川鳥類カウント調査～青梅市の上流域と下流域との比較」 『青梅市文化財保護指導員活動報告書 第 41 号 (令和 6 年度) 』 (青梅市郷土博物館)

(文責 御手洗望)